

挨拶

令和2年度通常総代会開催に当たり、ご挨拶を申し上げます。

まずもつて、本日の総代会に東北農政局北上土地改良調査管理事務所
の栗田所長様を始め、ご来賓の皆様には年度末ご多用の折、ご臨席
を頂きありがとうございます。

皆様には常々山王海土地改良区の業務執行に物心両面に渡り、ご支
援とご指導を賜り、衷心よりお礼を申し上げます。

また、総代の皆様には、平素事業運営にご尽力を頂き、心から感謝
申し上げます。

未知で恐ろしい新型コロナウイルスが発生してから、早くも一年が
経過しました。

これまで多くの方々が感染し、犠牲になっております。犠牲になら
れた方々に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。感染防止の
要であるワクチンの接種が順調に進み、その効果が表れて、一日でも
早く正常な日常生活に戻れることを願うものであります。

終息するまで皆さんと共に、消毒、マスクの着用、換気などの感染
防止マニュアルを励行していかなければと思っております。

さて、令和2年度を顧みますと、山王海、葛丸両ダムともに冬期は
小雪ながら3月中に満水に達し、かんがい通水は4月6日の施設点検
配水を経て、4月26日からは配水計画書に基づいて本配水を実施し、
9月5日までの通水期間、水利調整組合と例年通り連絡を密にして配
水し、概ね順調に推移して終了しました。

通水期間中の8月には、異常なほどの高温が続いて稲の登熟障害が懸念されたため、用水を増量して登熟障害の防止に努めたところであります。

親子ダム機能の山王海ダムから葛丸ダムへの積算取水量いわゆる（戻し）は、例年より少ない六百六十六万八千トンでありました。

また、水稻の作柄は気象環境の変化が激しく、栽培管理が難しい場面がありました。台風などの自然災害の発生もなく、「やや良」と豊穰の年であったと思っております。

今年、例年より積雪があつたため融雪水が多く、山王海ダムの満水は過去最速の3月3日午前1時30分でありました。

残念なことにダム管理規定により、洪水吐からの越流が禁止されたことから、春の風物詩であつた、太陽の強い日差しを浴びた満水越流水の白い波状の水飛沫と、水のカーテンのコントラストが織り成す美しい風景が、今後は見る事ができなくなってしまうました。

次に令和3年度の事業への取組みについて申し上げます。

最初に、本土地改良区の重要な使命であります農業用水の安定供給を図るため、「豊かな水を求めて」の本土地改良区の信条の下、山王海、葛丸ダムの施設設備の万全な保全管理と貯水量の確保に努め、利水調整規程で定める配水計画書に基づき、18水利調整組合の協力を得ながら、本年も農作業と稲の生育に支障をきたさないよう対応して参ります。

用配水施設と農地保全などの維持管理は、水利調整組合は元より、管内30の多面的支払組織と協調しながら万全を期して参ります。

農業水利施設が果たす多面的機能の「見える化」をアピールするためのイベントは、コロナ禍により令和2年度は残念ながら実施出来ませんでした。代わりに紫波みらい研究所の協力を得ながら「豊かな水でつながる人と自然・山王海水土里ふれあいマップ」を作成し、広く皆さんに機会を見て配布いたしました。令和3年度はコロナウイルス感染症の状況を見ながら、このマップを利用したウォーキングイベントの開催を考えております。

次に国営関連事業について、現状を報告いたします。

本事業の推進は東北農政局北上土地改良管理事務所が主体で執行していただいております。国営造成土地改良施設情報ネットワーク事業により、2つのダムサイトに有事の際、素早く現地を確認できるようにWEBカメラを、それぞれ2機設置して活用しております。

2月13日23時8分に発生した福島、宮城県沖地震と3月19日18時9分発生の宮城県沖地震が震度4であったことから災害対策要領に従い、全職員による警戒体制時に、事務所のパソコンでWEBカメラの映像を使い、事前に確認した上で、スピーディーに現地に出動することができ、役立っております。

また、平成31年に「防災減災国土強靱化3カ年緊急対策」により、防災情報ネットワーク事業が制度拡充され、非常時におけるダムの機能を確保するため、緊急重要インフラ対策として山王海ダム、葛丸ダムが指定されました。事業費七億四千万円で既に発注され、令和3年度中に整備完了する予定であると伺っております。本事業は全額国庫負担であり、北上土地改良調査管理事務所の皆様にご心から感謝申し上げます。

げます。

また、令和2年度から全額国費負担の事業費で、山王海土地改良区が「地理情報システム高度利用推進事業」の指定を受けて、令和4年度までの3カ年の計画で実施致しております。事業目的は土地改良区職員が減少する中、農業水利施設管理体制を強化するためにドローンの新技術を活用し、地理情報システムの高度利用化に向けて、山王海ダム、南幹線水路で若手職員が実地検証を行っております。

このシステムの機能が十分に発揮され、ドローンによる施設管理の省力化が期待されているところであります。

国営かんがい排水事業「山王海二期」地区は、農水省の調査地区として平成30年に採択以来、令和6年度の着工に向けて、将来の多様性を勘案し、本土地改良区の要望も取り入れながら、精力的に調査活動を展開していただいております。

県営事業の石鳥谷西部地区「農業競争力強化基盤整備事業」は、約600ヘクタールの対象面積を施行するため、平成29年に「推進協議会」を設立して以来、県の地区調査指定を受けてこれまで調査し、幾多の課題を解決しながら、間もなく先発地域の「大興寺地区」180ヘクタールが着工される予定であります。

今後とも、盛岡農村整備室、花巻市、地域推進委員会、そして改良区が一体となって、目的達成のために尽力して参る所存であります。次に事務執行を司る新年度の事務局体制についてであります。

これまで述べて参りました国、県営事業の円滑な事業推進と、令和4年度からの新会計基準への対応、運営基盤に係る賦課金徴収業務の

強化を図るため、換地、会計簿記、キヤド操作などの実務経験者2名を採用し、さらに経験豊かな退職者1名を継続雇用して、正職員14名、継続雇用者2名、臨時職員1名の計17名で業務を執行して参ります。

また、総務課の会計係と賦課徴収係を会計賦課徴収係に統合し、業務を一体化して効率化を目指します。

さて、本日の総代会にご提案する議案は13議案であります。

第二次補正予算の主な内容は、事業費の確定に伴う補正と、コロナ感染症拡大予防対策により各種会議、研修、イベントなどの中止により大きく支出が減額になることから、平成12年に建立した庁舎の老朽化対策として、その維持補修に備え、庁舎維持管理費積立金に500万円繰入れするものであります。

令和3年度の当初予算は、大雨によるダムの事前放流の法制化に伴う災害対応経費として、維持管理費の中に新たに目を起こし、「事前放流警戒体制費」として100万円を計上し、洪水発生時に放流の安全性を確保すると共に、下流地域の洪水被害未然防止により、住民の安全な暮らしを守る体制強化を図る予算であります。

また、葛丸ダムの水位計の故障の早期修復と、洪水吐周辺の土砂撤去のため、基幹水利施設管理費を昨年より一千四百万円増額して施工するものであります。

県営農業基盤整備事業の償還に関する特別会計は、令和2年度で県営土地総黒西地区、県営土地総南寺林地区、団体営事業の岩清水地区

が完了いたしました。令和3年度は、経営体育成事業の八幡東部地区と南日詰地区が完了の予定であります。

上程しております全ての議案を慎重審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

結びに、コロナ感染症から命を守りながらの業務であります。山海土地改良区の信条であります、過去の水不足の時代を思い起こし、「豊かな水を求めて」を合言葉として、農業用排水路施設の保全管理と用水の安定供給に励むと共に、国、県営事業の確実な執行に役職員が一体となり、鋭意努力して参る所存であります。

皆様には引き続き、ご指導とご支援を深くお願い申し上げます。挨拶といたします。

令和3年3月23日

山海土地改良区 理事長 高橋 勘一